

『ともだちのこと、しらせよう』

—インタビュー名人になって友達を紹介しよう—

1年

■ 設定の趣旨

対話から知り得たことや感じたことを表現する学習活動は、1年生のこの時期から丁寧に積み重ね、「楽しかった。」「分かってもらって嬉しかった。」という成就感を味わわせていきたい。そのためには、どのように質問すればより詳しく相手の話を引き出すことができるのか、どのような言葉掛けが相手の思いを受け止め共感して聞くことにつながるのかを、1年生なりに体験を通して理解させていきたい。

そこでこの時期の児童の特性を考慮し、「インタビュー名人になろう」という言葉を提示した。具体的にインタビュー場面を想像させ、小道具や録音機器も準備し、インタビュアーになりきって質問し合い楽しく言語活動量を増やしていきたい。それにより、話すことに不安感を抱いている児童もインタビューごっこをしているような感覚で、言葉のやりとりを楽しみながら学習に取り組むことができる。

しかし、インタビューそのものはうまくいっても、児童が聞いたことを忘れてしまい、文章を書く段になって困惑することも考えられる。聞きながらメモを取ることは、1年生には難しい。一方で、ボイスレコーダー機能等も搭載されている携帯電話は身近なものであり、その機能を知っている児童も少なくない。そこで、携帯電話に代わり、タブレット端末でインタビューを録音・録画していくように工夫する。それにより、質問した内容を忘れるという問題を解消したい。さらに、インタビューするペアと録音・録画するペアで役割分担し合って学習することで、互いのインタビューの良さに気づいたり、自分のインタビューを振り返ったりして学びを深めることができると考えた。

■ 指導目標

○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。

【知識及び技能】

○話し手が知らせたいことや自分にとって大事なことを落とさずに聞くことができる。そのために、自分が聞きたいことを明確にして話を聞くことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

○話の内容に対して、自分が興味をもったところや感心したところなどを伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○話し手がいちばん楽しいと思っていることに関心をもち、進んで質問し合うことを通して、友達との言葉のやりとり（話したり聞いたり）を楽しむことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

指導計画（6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールを知り，見通しを持つ。 ・内容が不十分な教師の他己紹介を聞き，もっと知りたいことを考える。 伝えたいこと→理由（毎日の取組・できるようになったこと）→自分の考え ・友達に聞いたことを文章に書くことを知り，どのような質問をすればよいかについて考える。 5W1H以外にも、「ずっと続けてきたことか」「何かの出来事で楽しくなったのか」も話したいことの観点に入れて取材する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インタビュー名人になって友達を紹介しよう」という単元のゴールを知らせ，学習の意欲を高めさせる。 ・教科書（P40）の作例を基に，教師作成の2段落目が欠如している文章を紹介し，比べて考えさせることで2段落目があることの重要性に気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〇〇先生が，今いちばん楽しいことは～です。 先生も〇〇先生の～を見てみたいです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P39）から，「いつ」「どこで」「だれと」「どんな」「どうして」などの言葉を使って質問すれば，内容が詳しく分かることに気づかせる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】発言・記述</p>
2	2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り，どのような質問をすればよいかを確かめる。 ・付録CDを聞き，質問の仕方を知る。 ・インタビューするときの道具について考える。 ・インタビューをするペアと端末で録画をするペアの役割を知り，班ごとにインタビューし合う。 ・録画を再生し，インタビューで分かったことをワークシートにまとめる。 ・全体で友達のインタビューの良かったところを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り，質問で活用する言葉を確認しながら黒板に整理する。 ・付録CDを聞かせ，相手を認めながら共感して聞くことに気づかせる。（「～すごいですね。」） ・インタビューするときは，マイクや録音機器，メモ帳が必要であることを押さえさせる。 ・意欲を高めるために，場合によっては事前に生活科や図工でマイクを作成しておき，活用できるようにする。 ・班の中でインタビューをし合うペアと録画をするペアに分かれ，役割分担をして質問をし合うようにする。（次時は役割を交代する） <p style="text-align: right;">【思・判・表】発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録画を再生し，質問して分かったことをワークシートに記述するようにする。

わたしの授業

			<ul style="list-style-type: none"> ・場合によっては、もう一度質問する機会を与え、他社紹介の文章が書けるようにする。 ・友達のインタビューの良かったところや気づいたことを共有させる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】発言・記述</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P 4 0）の例文を基に文章の書き方を知る。 ・段落番号を振り、内容ごとにまとまりを作って書くことを知る。 ・適宜2段落目の友達の書きぶりを参考にする。 ・推敲の観点を知り、自分の文章を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文を音読し、段落番号を振らせる。 ・段落ごとにどんな内容が書かれているかを確認、段落を意識させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>「はじめ」の段落は「何が」楽しいのかを書く 「なか」の2段落目は、インタビューで分かったことを2つ～3つ選んで書く。ずっと頑張ってきたことか、ある日のできごとか 「おわり」の3段落目は、聞き手の思いを書く</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・2段落の書き方で迷う児童がいると考えられる。机間指導の中で教師が参考となる児童の作品のいくつかを紹介する。 ・推敲の観点を参考にさせながら、自分の文章を読み直させる。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】発言・記述</p>	
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・文章の良さを全体で共有する。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を伝え合うポイントを押さえさせる。 ○友達の文章を読んで良かったところを伝え合おう <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・2段落から、詳しく伝わったこと ・3段落から、書き手の思い ・自分も同じような経験から思ったこと </div> <ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童の文章をテレビに映し出し、発表させる。 <p style="text-align: right;">【態】発表・記述</p>

■ 指導のポイント

〈第2時の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ
<p>1 前時の学習を振り返り、どのような質問をすればよいかを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこで」「だれと」「どんな」（どれくらい・どのように）「どうして」「なか」ずっと取り組んできたことか？ ある日のことか？ <p>2 付録 CD を聞き、質問の仕方を知る。 受容・共感→質問（知らないこと・もっと聞きたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なるほど」「おー」「へえー」 「すごいですね。」「～なんですね。」 ・「～ということですね」繰り返し 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、質問で活用する言葉を確かめるようにする。 ・事前にカードに書いて準備しておき、児童の発言を基に黒板に貼っていく。 ① 知っていたことか、知らなかったことか ② 知らなかったことでもっと知りたいことを考えながら、聞けるようにする。 ・付録 CD を聞かせ、相手を認める言葉や共感する言葉、答えてもらった感謝の言葉なども言っていることに気づかせる。 ・どんな道具が必要かを考えさせることでインタビューする場面のイメージを膨らませるようにする。 ・マイクや録画機器、メモ帳が必要であることを押さえさせる。 ・テレビ等で見たことのあるインタビュー場面を想起させ、聞き漏らさずに丁寧な言葉でインタビューすることや必要なことを不足なく聞く必要があることを1年生なりに意識させたい。
<p>3 インタビューするときの道具について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクがいるよ ・携帯があれば録音できるのに ・友だちの知らなかったことを知ったときはメモしておくで後で思い出せるね <p>4 ペアになってインタビューし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをするペアと端末で録画をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしながらメモをとることは難しいという意見が出されるだろう。また、携帯電話等で手軽に録音できることを児童は知っている。そこで、教室にあるタブレット端末で録画（録音）することを体験させる。日常化で慣れさせていく。 ・班の中でインタビューをし合うペアと録画をするペアに分かれ、役割分担をして質問をし合うようにする。（次時は役割を交代する） ・意欲を高めるために、場合によっては事前に生活科や図工でマイクを作成し活用させる。 ・録画を再生し、質問して分かったことをワークシートに記述させる。 ・場合によっては、もう一度質問する機会を与え、他社紹介の文章が確実に書けるようにする。

受容・共感
質問・感謝

わたしの授業

<p>ペアの役割を知り、班ごとにインタビューし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 録画を再生し、インタビューで分かったことや新たに付け加えたいことをワークシートにまとめる。 <p>5 全体で友達のインタビューの良かったところを出し合う。</p>	<p>【思・判・表】発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達のインタビューの良かったところや気づいたことを共有させる。 <p>【思・判・表】発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時はインタビューと録画係の役割を交代することを告げる。
--	--

■ 後記

音声言語による学習で課題となるのは、話し言葉は書き言葉と違ってその場に留まらず、時間が経過すれば消えてしまうことだ。学習の場をどんなに工夫しても、全ての児童が何を話したのかを教師が聞き取ることは困難である。そのため、児童一人一人の評価やその後の指導が難しい場合がある。

ここで、一人一台のデジタル端末が整備され、1年生であれ児童自身が写真や動画の撮影ができるようになったことは、国語科の特に「話すこと・聞くこと」の学習においても、また、他教科の学習においても、今後、大いに役立つであろうと考えられる。

今回は、互いのインタビューを録画（録音）することを考えた。百聞は一見にしかずである。児童は、自分自身が話している姿を客観的に見ることができる。自分の話す姿と向き合うことで、そこから感じたことや気づいたことが生まれる。それは、次の活動へと生かされ深い学びへとつながるであろう。教師主導の学習から脱却し、児童自身、児童どうしが学びを深め、やさしい話し方・あたたかい聞き方を模索していくことにつながると考える。

